



あるくと
気持ちが楽になるよ
ゆっくり歩くと
遠くまで行けるよ

四季彩々

NO.29 2009年 11月号 隔月発行
発行 全日本年金者組合 岐阜県本部
岐阜市徹明通7-13教育会館306号 TEL 058-4253-6266
編集責任者 上 宗治
土岐市妻木町3247-195 TEL 0572-57-3250

新しい仲間の紹介

9月と10月の加入者です。今回は18人です。

支部	
各務原	北村芙美子
郡上	池戸千賀子 大内陽子
美濃	太田裕夫
可児	山田金男 青山てつ子 安形さと 佐藤勝也 永田喜久子
多治見	水野京子 若尾孝子 渡辺フクエ
土岐	木塚卓夫 斉木克躬 橋本佳文 加藤 勉 安藤俊男
中津川	日下部隆保



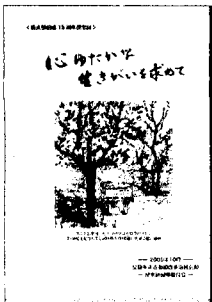
ゆっくりを楽しもう



今後、一緒に

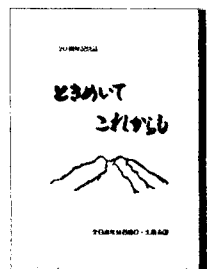
多治見支部〈新支部結成15周年記念誌〉

心ゆくがな 生きがいを求めて



多治見支部は10月に年金者組合、新支部結成15周年記念誌(左)を自前で手分けされ制作・発行されました。A4版で64ページです。
これまでの活動の写真と年表は資料として残るものです。思い出のエッセー・平和の想い・文芸などが豊かに載っています。一部300円です。

土岐支部20周年記念集会・記念誌発行



土岐支部は20周年記念集会をセフトピア土岐で11月14日に行います。この日に向けて作成された記念誌(左)が配られることになっています。B5版で百ページです。亡くなった方の思い出、これまでの活動の思い出、文芸、歌、写真、年表などが掲載されています。支部預金をはたいて無料で配られる予定です。

ときめいて これからも

可児支部は2003年に発足しました。
今春から仲間が増えだしました。3月と4月で10人、その後も毎月増えて目標としていた60人を大きく突破しました。



11・8国民大集会での可児さん
東京、代々木公園

多くの仲間と聞く
「年金者組合は頼りがいがある」
「仲間意識がでる」
「活気がある」
「ちょっと勉強で大事なことがある」と言っています。

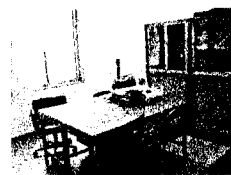
10月予定していたランドゴルフは雨で中止になりましたが、11月は1年一度の日帰り旅行で奈良に行きます。12月はおでんをつくってあったまろうか」ということになっています。

大事だと思ってるやっていることは次のことです。
①素敵なカラー刷りの加入申込書を届けています。
②支部ニュースは加入された人の紹介をしています。発行したらすぐ届けます。6月からA3版2ページで、親しみのわくものになりました。
③「ちょっと勉強」でわかるように話すこと、必ず質問、感想など出し合い工夫した学びにしています。
④個人負担を少なく、健康と文化性も配慮しています。
⑤おもな行事の参加は、執行委員が聞き回って、車の手配をしています。そこでも仲間の意見、要求をよく聞いています。

これから、興味を持ってもらえる計画を立て、おもいやりある活動を続けて行こうと思っています。

年金者組合 県本部事務所が転居

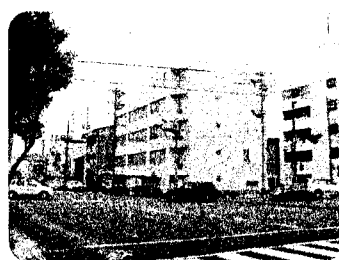
新しい教育会館は、岐阜市中心部を東西にのびる徹明通りの西方、徹明通七丁目交差点に面した所、屋上から垂れ幕を下げればアビール効果抜群。その三階の、小さく



事務所8畳の部屋

県本部事務所が転居しました。県教育会館の新築にともない、引越すことになりました。

県本部書記長 岡部 義明



岐阜県中心部の新しい教育会館

区切られた部屋のひとつ、八畳間ほどが新居です。この部屋に「年金者組合県本部」・「年金者組合岐阜支部」・「生活と健康を守る会」の三団体が同居します。
新しい部屋は気分がいいけれど、「狭いながらも楽しい我が家」というにはちょっと狭すぎ、の感があります。
なんせ、愛知県本部の八分の一ほどです。皆さん、でっかくありません。仲間をたくさんふやしましょう。仲間をたくさんふやして！ 仲間が集まる事務所に。

ひとだみ

9月に土岐支部の組合員、森さん(68歳)と伊佐治さん(80歳)二人が亡くなりました。二人とも葬儀をしないでと遺言され、家族も遺言どおりにされました。しかし、二人の活動家の死は痛手で、その死を認めることに、なぜか、けじめがつかない。これまでの彼ら二人の活動に感謝の表現をして仲間とそれを共有したい。こんな思いで二人を偲び「送る会」を仲間と取り組みました。会場選び、写真、花の飾りなど迷ったことはして。送る会」のことは、いろんな人に力を入れます。もう広がり。点検することではまず80人位の見当で準備しました。しかし、国語同盟の代表が遠いところから駆け付けて頂いたり、他市からも多数の人が来られ、124人になり、裏方はテーブル、椅子の増設をしめやかに、あわてて行いました。トランプ演奏とともに黙祷で始まりました。二人を語るそれぞれのスピーチでは、もろい泣きながらも、地道な世直し活動が浮き彫りになります。仲間とつながりの強さや、お互いが感謝し合えるようすが会場に伝わります。そして参加者全員がこのことを共有したようです。▼ここで私は、二人と同じように、志を引き継いでゆく気持ちが深まり、そして二人の死へのけじめが、やっとできました。

介護保険制度は どのようにして生まれたか ②

各務原支部 豊島 和夫

介護保険は、1997年に法律ができ、2000年4月から実施された制度です。それまでは、措置制度でした。措置制度とは、たとえば、高齢のおじいさんを家族が介護してきたのですが、家族が介護疲れで体をこわし、介護できなくなった。ヘルパーさんをお願いする経済的な余裕もない。こんな時、市の福祉課に行くと、特養ホームに入所させてほしいとか、ヘルパーさんを派遣して欲しいとお願いします。このとき、市(町村)が必要であると状況判断した場合、特養ホームへの入所がで

きるようになります。またヘルパーさんが派遣されることになりました。この市の一連の行為を法律用語で「措置」と言います。こういう制度ですから利用料はその人の支払い能力、収入に応じたものです。この制度は税金で運営されていきました。1990年ごろから、家族介護の精進しや、それに伴う悲劇的な事件が社会問題になりました。こんなことは、繰り返してはいけません、そのために「介護の社会化」が叫ばれるようになりました。これまでの措置制度では、利用できる人が限られていました。

介護の必要のある人が、だれでも利用できるような公的な介護の量の拡大(ヘルパーの増員、特養ホームの増設など)が急務になりました。その解決策として、これまでの措置制度を利用しやすくするため、その量の拡大をする方法もあったのです。その財源を消費税の値上げなど増税に求めたので、国民の支持が得られませんでした。財政を生活中心に転換すれば消費税などの庶民増税なしでできると私は思っています。このころドイツなど世界では例のない保険料を徴収して公的介護を拡大する介護保険制度を



次回、介護保険の問題です。

始めていました。それを見習ったのか、ドイツの制度とは、かなりちがいますが、介護保険制度が導入されました。1月30000円程度の保険料を負担すれば一部の自己負担で北欧並みの介護サービスが受けられるといつて、介護保険は実施されました。



この時期に収穫している野菜は、大根、かぶ、わけぎ、ねぎ(初霜以降収穫と決めている)、さつま芋、里芋、ほうれん草、レタス、サニーレタスなどで、白菜とブロッコリーがあと一週間後に収穫できそうです。秋から冬にかけては葉もの野菜の時期であり、私は播種(種まき)時を分けて収穫している。例えばほうれん草は最初に八月二三日に播種したが、まだ暑かったせいにか本しか芽が出ず失敗、その後九月八日、十六日、三十日、十月一日、十一日に播種し、十月七日に最初の八本を収穫し、順次数日おきにとっている。

試行錯誤の野菜づくり ⑧

わけぎは六月末に株を掘って保管していたのを九月十七日に植え、すぐに伸びてくるので順次収穫できる。その他、十月には小松菜、水菜を二回に分けて播種した。十月末から十一月初旬は玉ねぎを植える時期である。私は自家製苗でなく購入しているが、店によって一見して良さそうな苗、そうでない苗とあり、よく選んで買う必要があると思った。購入した苗を十一月一日にマルチを敷いた苗床に植えた。(十一月五日記述)

恵那 加藤 昌宏



しかしこれ以上想い出しようもないし、わずか一年間の空白だ。どうでも良いと思っていたら「多分あなたのものである、当時の知人や写真、工場のあった場所など、どんなことでもよいので思い出して欲しい」とまた電話があった。

翌日さっそく姉と社会保険事務所へ行き「当時姉からもらった手紙に

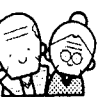
「60年ほど前に大垣市の会社に勤務した覚えはないですか」と年金特別便が届いたが「あまりにも昔のことなので会社名も何も思い出せない」とうしたのか?と姉(78歳)から相談を受けた。紡績工場だったと云うので、それなら「近江絹糸」だろうと教えてあげたが「別の名前なのでもう一度よく思い出してほしい」と連絡があったと云う。

本人が何も覚えていないのでは困ったものだと言きながら、近江絹糸に在職だったという長谷川委員長を思い出した。そして、何とかヒントがあるかと思ひ、さっそく電話にて相談を仰ぐことにした。当時、大垣にはもう一つ「〇〇紡績」という会社があったので、多分その会社のことだと思ひ、一緒に社会保険事務所へ行き「私が覚えていた」と証言した方がいいのではないかとアドバイスを頂いた。

半ばあきらめていたのに、長谷川さんを出したことで一気に解決しました。もし私が年金者組合に入っていなかったら、この姉の「宙に浮いた年金」は、永遠に消えてしまっている。この事を思うと何ともやり切れない気持ちになる。と同時に長谷川委員長と年金者組合に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

多治見支部 鈴木 徳治

身近にあった! 「消えた年金問題」



と再度相談を受けた。

年金者組合・長谷川委員長のアドバイスで無事に回復

岐阜県高齢者のつどい 2009年

10月10日に、岐阜県の各地から230人が参加して岐阜市ワークプラザにおいて岐阜県高齢者のつどいが行われました。全国一斉に行われた年金者組合の「年金一揆」に呼応し、



郡上支部による「郡上の風」熱演に会場静まる

岐阜県の高齢者大会を目指すもので、はじめに長谷川県委員長のあいさつ、来賓の挨拶がありました。オーブンクアトラクションとして湯上さん、白川さんの「うたごえ」各務原支部の桜井さんによる珍しい「南京玉すだれ」そして郡上支部員による郡上一揆を踊りで表現された郡上の風は感動でした。各地の報告では一八会の原芳一さんと多治見支部の報告は、参加支部員と多治見支部の報告は、参加支部員



南京玉すだれ



駅前に向けてデモ行進

全員で、それぞれのサークルが登山の服装や、温泉巡りは浴衣、グランドゴルフの小道員まで持ってきて、歌や、かけ声を出しながらの楽しい報告でした。県医労連の小島さんの「医療・介護の現状」の話を聞きました。集会アピール、特別決議があり、全員で後期高齢者医療制度など廃止を確認しました。そのあと、元気よくプラカードを掲げ、シュプレヒコールの声を響かせ、デモ行進で市民に我々の願いを訴えました。